

2024.1.25 No429

おきがくろうニュース  
沖縄学校事務労働組合



自らの要求は自らの手で！

カンパ送付先

郵便振替 02090-0-2239  
沖縄学校事務労働組合

連絡先

e-mail:

okigakurou2017@gmail.com  
HP:okigakurou.web.fc2.com

## 働き方改革推進課との意見交換会のご報告！

あけましておめでとうございます！今年も本組合をどうぞよろしくお願ひします。さて、今年の元日は、暦の上で「一粒万倍日」と「天赦日」が重なる「最強の開運日」だったそうです。

しかし、すでにご存じのとおり、元日の「令和6年能登半島地震」をはじめ、悲惨な災害や事件・事故が相次いで発生してしまいました。読者の皆さんも「今年は一体どんな年になるのだろう・・・」と、不安や心配の気分に包まれた年明けとなったのではないのでしょうか。

暦や占いの開運やおみくじの結果に一喜一憂したり、お正月のおとそ気分浸るのも松の内までと割り切り、自らの幸福は地道な努力でコツコツと築き上げるほかないようです。

本組合は、昨年末の暮れも押し迫った12月27日(水)に、今年度から県教育庁内に新設された「働き方改革推進課」の働き方改革班と、「学校事務職員の働き方改革」をテーマに意見交換会を開催しました。今回はそのご報告です。

### \*1 「学校事務職員」について

開口一番、本組合は「働き方改革推進課の新設」について、率直に歓迎していることを伝えました。「教職員の長時間労働」はここ数年来、社会問題として世間に広く認識され、現役教職員の病気休職率の増加や教職員の成り手不足など、学校現場に様々な悪影響を及ぼす原因となっています。それらの問題解決の重要性や緊急性は、働き方改革班とも共有したところです。

しかし、働き方改革の目的をあらためて確認すると、「教員が授業に集中するために」や「子どもたちのために何ができるか」など、具体策がほとんど見えてこない現状が明らかとなりました。「教職員」の働き方改革のはずが、「語るに落ちた」ということなのか、その範囲に学校事務職員が入ってないように感じました。教員や子どもたちの話題に終始す

る働き方改革班に対して、これまで長らく学校事務職員の定数充足率が80%台であった経緯や教員よりも高い病気休職率の現実を、データに基づいて意見してきました。働き方改革班はそれら事実に対して、「知りませんでした」と明言しています。学校事務職員の現状と課題を、今後も当局に伝えていく重要性をあらためて認識し、このような意見交換の場を定期的に設置するよう強く求めました。

### \*2 「学校徴収金」について

学校徴収金については、本組合の主張しているところである「公務ではない」という点を重ねて確認しました（※ジムジム第425号から第427号の「3か月連続の学校徴収金特集号」をぜひご覧ください）。

公務とするためには、徴収したお金を「自治体の歳入」として採納する公会計化の手続きが必要です。しかし、当然ながらどこの学校でも、学校徴収金についてそのような適正な手続きをしていません。なぜならば、学校徴収金は公務ではなく「私費会計」だからです。そのため、たとえ校長でも学校徴収金に関する事務を、部下に職務命令できません。地方公務員法第32条に定められた「上司の職務上の命令」とは、公務に関する命令を意味するからです。

加えて、学校徴収金については、定性的にではなく「定量的に」考えてほしいことを、数値を用いた具体的な事例に基づいて働き方改革班に説明しました。実際に意見交換の場に出した事例で、「15名の教員と1名の事務職員が勤務する学校」を想定してみます。15名の教員が学校徴収金に関する業務で毎日各々30分ずつ残業していたとして、それらの業務をたった1名の事務職員に全て転嫁すると、実に「7時間30分の残業」(!)となるわけです。事務職員はその日のうちに帰宅できないことになり(!!)、月の残業時間は過労死ライン(月計80時間)をはるかに超える「150時間以上」(!!!)に達する計算となります。本組合によるこれらの主張に対して、

働き方改革班は全く反論できず、学校徴収金問題の根深さを再認識したようでした。

\*3「ワン・ピース」を集めたら「ピース・リスト」になる!?

働き方改革推進課が中心となってまとめた『私たちのピース・リスト2023』という文書があります。

「学校における働き方改革」の取組目標（暫定版：短期(R5・6年度)取組目標のみ)を一覧表にしたものです。今回の意見交換会の資料としても本組合に提供されましたが、読者の皆さんも勤務先ですすでにご覧になったでしょうか。本記事の最後は、1月13日(土)に実施された大学入学共通テスト科目の「外国語」にちなんで、ひとつ「英語のお勉強」をしてみましよう。

当該文書の表紙の中で、「ワン・ピース」という言葉の後に「(一部分・一欠片)」という翻訳が添えられていますが、これは明らかな誤訳です。英語の「one-piece」には「一体型の」という形容詞や、「(一体型の)服や水着」という名詞の意味しかありません。日本語の「一部分」は英語の「a part (of)」であり、「一欠片」は「a piece (of)」です。おまけに、日本で「婦人服」を指すワン・ピースは、英語の「a dress」にあたります。つまり、「ワン・ピース」とは完全な和製英語なのです。

さらに、それらワン・ピースを集成したとされる「ピース・リスト」という言葉にいたっては、筆者の勤務先の英語を母語とするALT(外国語指導助手)によると「全くの意味不明!」だそうです……。働き方改革推進課をはじめ当局が全庁体制でまとめあげたと豪語し、私たちの今後の働き方改革の指針ともなるべき重要文書が、困惑するほかない誤訳やALTもお手上げの和製英語で公表されているのです。

某学校の実情として「管理職が次年度から学校徴収金を事務職員に担当させようとしている」などの情報が、本組合には寄せられています。公務ではない学校徴収金事務を担当させられることは、決して他人事ではないのです。本組合は今年も読者の皆さんのために、学校現場における私たちのよりよいあり方を追求して活動してゆきます!

◎連載小説【第14話】「デスクワーカーズ(JWS)」(6) (始、静華、香子：第一高校の事務職員。この3人を中心に組合加入・活動までの物語が展開していく。博：第二高校の事務職員。「JWS」組合員)

とある居酒屋。始たち3名は、「デスクワーカーズ(JWS)」の飲み会に参加していた。

「この飲み会は、執行委員会の後にいつも開いているんだよ」博が説明した。

「そのためか、組合の役員が中心になってね、ほら、前に座っているのが書記長だよ」

「やあ、よく来たね。第一中学校の守(まもる)です。博とは同期なんだ。けど、委員長の博みたいなおじさんギャグは言わないから安心して、よろしく。」

「ああ、もう洗礼を受けました……。って、博さん委員長なんですか!」始は驚いた。

「言ってなかったっけ?、まあ、名ばかり委員長だけどね」と笑いながら言った。

「ところで、仕事を押し付けてくる教頭に困っているんだって。武は何をしているんだ!。君たち、今すぐ組合に入りなさい。私が学校に乗り込んで、「うちの組合員を助けもせず許さんぞ」と武をコテンパンに言い負かしてくるから」。ただでさえ好戦的な性格に、酒が入った守はパワーアップしていた。

「まあまあ、彼らは私たちの関係が分からないから「危ない人」と思われるぞ」博が守をなだめた。

「実はな、この「守」と事務長の「武」、私「博」は同期でね、「JWSの三羽がらす」と言われていたんだ。組合活動は、いつも一緒に……。だから守は許せないだろう」。

「まあ、それは置いといても、「組合は、組合員が困っているなら、みんなで協力して助ける、それが団結であり、組合の力の源である」。そうだろ、守。だからこそ、お前は「物申す」ために、武の学校へ乗り込むのも辞さないわけだろ?」

「どう、楽しんで飲んでます?」、始たちのそばに来て声をかけてきた女性がいた。

「博さんだけしゃべってばかりいて、守さんも酔っちゃって、この人達はもう……」。

「このおじさんたちはほっといて、あちらで話しましょう」(第15話につづく)